

自宅会員 調査結果

1. 調査概要

調査日程 平成 23 年 2 月 10 日送付 2 月 28 日締め切り
調査対象 平成 22 年度自宅会員
調査内容 平成 22 年度中の就労状況について
特別支援教育への関わりについて

2. 調査結果

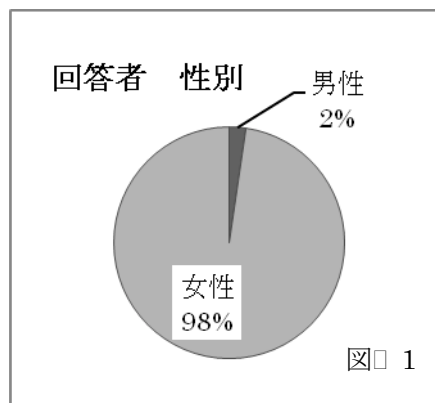
調査送付件数 60 名
回答者数 43 名
回収率 71.67%

3. 基礎情報について

回答者性別（人）

男性	1
女性	42

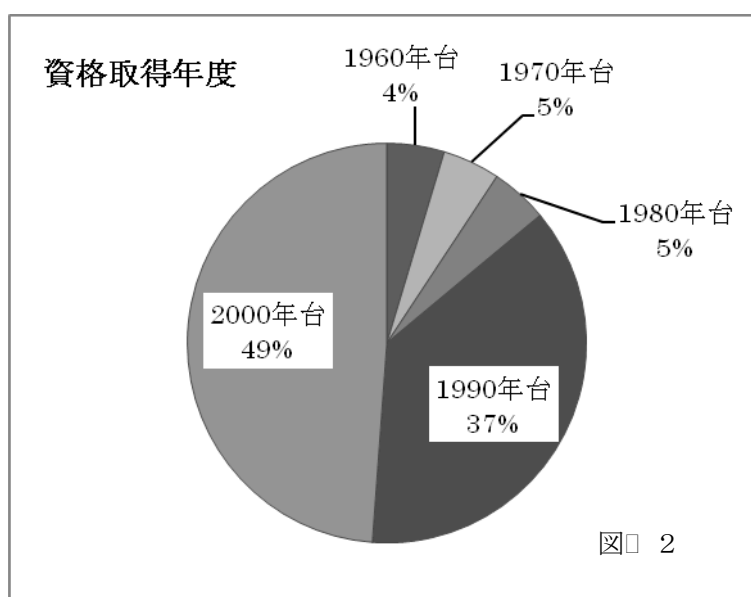
(図-1)



資格取得年度（人）

1960 年台	2
1970 年台	2
1980 年台	2
1990 年台	16
2000 年台	21

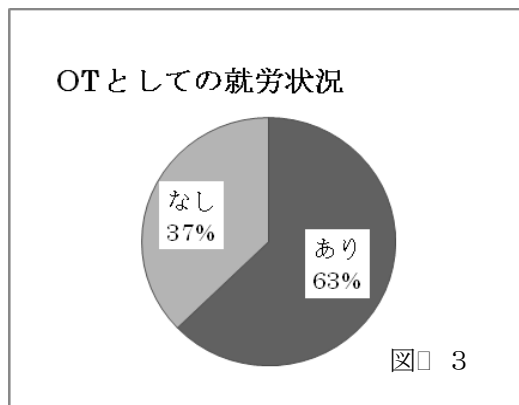
(図-2)



4. 今年度（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）の
就労状況についてお答えください。

あり	27
なし	16

(図-3)

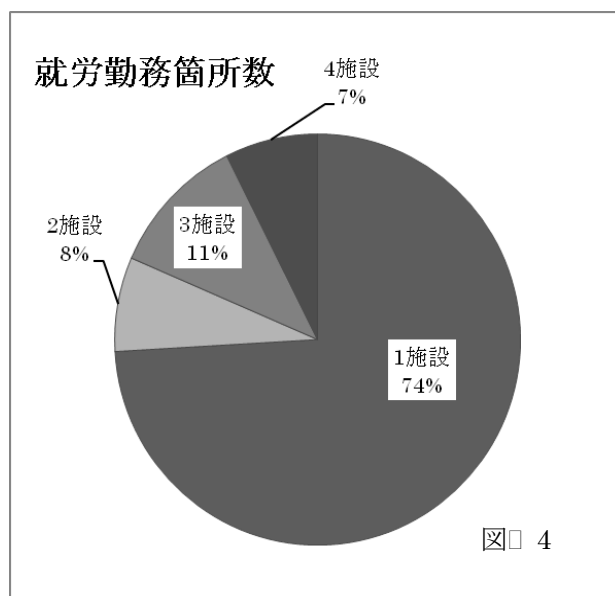


5. 2.で『はい』の方のみ。勤務場所、頻度について。
(今年度中に病院・施設勤務となった方は頻度欄に『常勤』)

就労勤務箇所数（人）

1 施設	20
2 施設	2
3 施設	3
4 施設	2

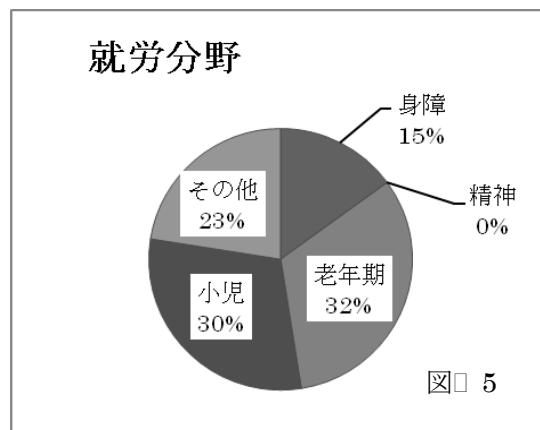
(図-4)



就労分野（人）

身体障害領域	6
精神障害領域	0
老年期領域	13
小児領域	12
その他	9

(図-5)



就労頻度（人） 就労勤務先ごとの集計

週5回	4	月2回	2
週4～5回	1	月1回	3
週3～4回	2	年8回	1
週3回	5	年7回	2
週1～2回	4	年6回	1
週1回	2	不定期	1
		常勤	5

6. 特別支援教育にかかわっている方の内容。

記入内容（1件）

依頼により講師活動 支援会議

全体の所見

自宅会員数と経験年数は、平成 20 年度の会員数の年代別構成と比較すると、資格取得からの年数 10 年以下（会員数比 74%）の自宅会員数の割合は 49%と少なく、11 年～20 年（会員数比 16%）の自宅会員の割合が 37%と 2 倍以上である。女性会員が多く、子育て世代ということが影響していると思われるが、そのうち 2/3 の会員が何らかの形で就労しているため、子育て世代はよりフレキシブルな形態で就労することを選択している会員が多いと考えられる。

就労分野については、小児領域、老年期領域がそれぞれ 3 割を超えており、非常勤を選択しやすい分野であることが伺える。就労頻度についてはとくに傾向はなく、就労箇所は、1 施設が多いが、4 施設を掛け持ちしている会員もいた。

特別支援教育への関わりはわずかであったが、今回の調査では不十分であろうと思われる。

平成 23 年度長野県作業療法士会 調査委員会

身障分野 調査結果

I 調査概要

調査目的：県内身障分野（病院）の作業療法実施状況調査

調査日程：平成 23 年 7 月 1 日～7 月 15 日

調査対象：県内の作業療法士がいる身障分野（病院）78 病院

調査内容：勤務状況、リハ実施状況、回復期病棟の有無とそれに関する状況

II 調査結果

配布数：78 回答数：42 回収率：53.8%

*結果は、一般病棟と回復期病棟が比較しやすいように並べて表示した。

1) 回復期病棟を有していますか。

あり：12 施設（29%） なし：30 施設（71%）

*約 30%の施設で、回復期リハ病棟設置

*回復期病棟のみの病院はなく、全て一般病棟との併設。

2) 病床数についてお答えください。

一般病棟（42）

回復期病棟（12）

100 床未満	17(41%)
100～300	17(41%)
300～500	5(11%)
500 床以上	3(7%)

30～50 床	6(50%)
50～100	4(33%)
101 床～	2(17%)

3) 年間稼働日数についてお答えください。

	一般病棟	回復期病棟
～300 日	18(43%)	0
301～364 日	14(33%)	2(17%)
365 日	6(14%)	10(83%)
未回答	4(10%)	0

*365 日体制について：一般病棟では、14% 回復期リハ病棟では、83%が体制取得

・早出・遅出の有無

*一般病棟：中信の 2 施設のみ実施

*回復期病棟：東信の 1 施設のみ実施

4) 土日の出勤状況についてお答えください。(平日比)

土曜日			日曜日		
	一般病棟	回復期病棟		一般病棟	回復期病棟
0%	7(17%)	0(0%)	0%	33(79%)	1(9%)
1~25%未満	7(17%)	0(0%)	1~25%未満	3(7%)	1(8%)
25~50%未満	9(21%)	5(42%)	25~50%未満	2(5%)	5(42%)
50~75%未満	7(17%)	2(17%)	50~75%未満	1(3%)	2(17%)
75~99%未満	3(7%)	3(25%)	75~99%未満	1(2%)	1(8%)
100%	8(19%)	1(8%)	100%	1(2%)	1(8%)
未回答	0(0%)	1(8%)	未回答	1(2%)	1(8%)
妥当性なし	1(2%)		妥当性なし	0(0%)	

*土曜日：稼働していないのは、一般病棟の17%。

回復期は、全施設が平日比25%以上の職員数で勤務体制をとっている。

*日曜日：一般病棟では、稼働していない施設が約80%。回復期で稼働なしは、1施設(9%)。

*土・日ともに、平日と変わらない勤務体制をとっている施設もある。

5) 実際の業務に関わっている職員数についてお答えください。

・50床当たり換算

*回復期病棟 未回答1

	PT		OT		ST	
	一般病棟	回復期病棟	一般病棟	回復期病棟	一般病棟	回復期病棟
0人	0	0	0	0	9(22%)	0
0~2.5人未満	26(63%)	0	32(70%)	0	26(63%)	4(37%)
2.5~5.0人未満	8(20%)	0	7(15%)	0	5(12%)	4(36%)
5.0~7.5人未満	4(10%)	1(9%)	1(2%)	2(18%)	0	1(9%)
7.5~10人未満	2(5%)	3(27%)	0	2(18%)	1(3%)	1(9%)
10~12.5人未満	1(2%)	2(18%)	1(2%)	4(37%)	0	1(9%)
12.5~15人未満	0	1(9%)	5(11%)	2(18%)	0	0
15人~	0	4(37%)	0	1(9%)	0	0

6) 職員1人1日当たり疾患別患者数についてお答えください。(単位：人)

	一般	回復期
脳血管	8.09(65%)	4.86(70.93%)
運動器	4.03(32%)	1.99(29.04%)
呼吸器	0.31(2%)	0.002(0.03%)
心大血管	0.008(1%)	0

注：回復期の()内数字に関しては極小値であるため、小数点第2位まで表示した。

7) 患者1人1日当たりリハ実施単位数についてお答えください。

	一般病棟	回復期病棟
1~2 単位未満	17(41%)	0
2~3 単位未満	7(17%)	7(59%)
3~4 単位未満	1(2%)	1(8%)
4~5 単位未満	1(2%)	0
5~6 単位未満	0	1(8%)
6~7 単位未満	0	2(17%)
未回答	3(6%)	2(8%)
妥当性なし	13(31%)	

* 一般病棟では、約40%が1~2単位取得。
3単位以下で約60%を占める。

* 回復期では、約60%が2~3単位取得。
20%は、6~7単位取得も。

8) 職員1人1日当たり担当患者数についてお答えください。

	一般病棟	回復期病棟
5~6 人未満	0	3(25%)
6~7 人未満	0	4(33%)
7~8 人未満	6(14%)	0(0%)
8~9 人未満	4(10%)	2(17%)
9~10 人未満	6(14%)	2(17%)
10~15 人未満	22(52%)	0
15~19 人未満	1(3%)	0
未回答	1(2%)	0
妥当性なし	2(5%)	1(8%)

* 一般病棟では、最低で7人以上。
50%以上は10~15人。

* 回復期では、50%が5~7人。

9) 今後、365日実施の予定はありますか。

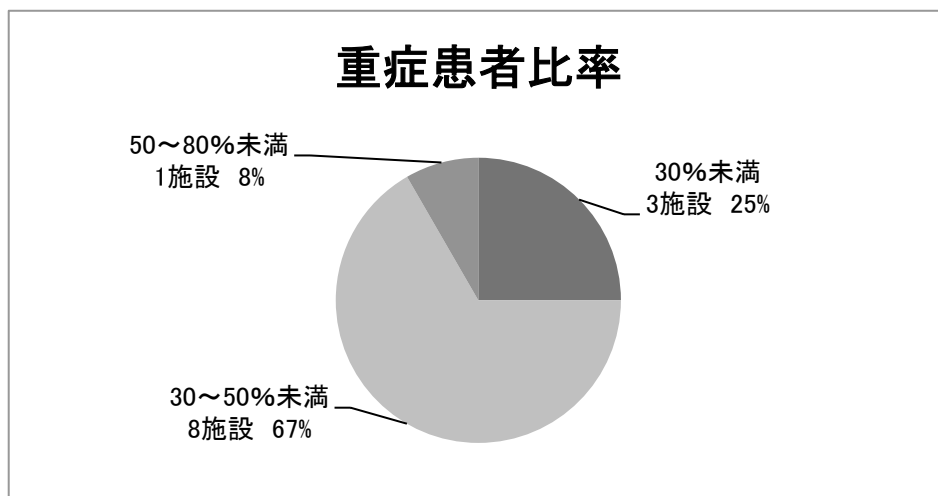
一般病棟(未回答1): 42施設中、6施設(64%)が予定。既に実施中が6施設(14%)。
回復期: 12施設中、1施設が予定。既に実施中が、10施設(83%)。予定なしが1施設。

10) 今後、回復期病棟を取得する予定はありますか。

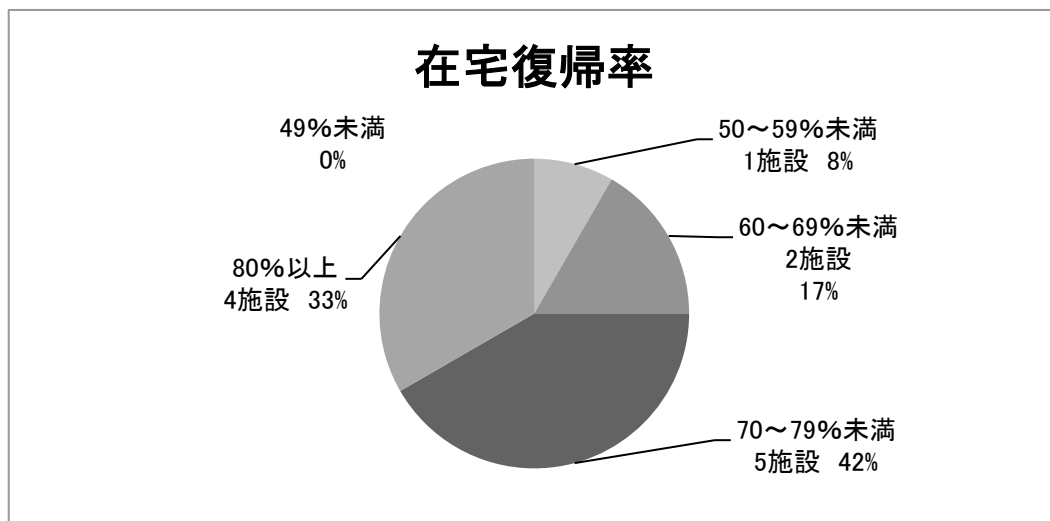
北信・南信で各1 計2施設が取得予定。

*以下の項目は、回復期病棟のみ。

11) 昨年度の重症患者比率についてお答えください。



12) 昨年度の在宅復帰率についてお答えください。



13) 重症者回復加算：12 施設中 10 施設取得。未回答 1

14) リハ充実加算：12 施設中 3 施設取得。

15) 休日リハ加算：12 施設中 10 施設取得。

*今回の調査では、回答率が 53.8%と低かったため、回答率の改善が今後の課題である。

精神科領域調査結果

I. 調査概要

調査目的：精神科領域に勤務する作業療法士の実態調査

調査日程：H23年8月1日～8月20日

調査内容：勤務形態、業務内容、訪問への従事の状況、対象患者に関する調査

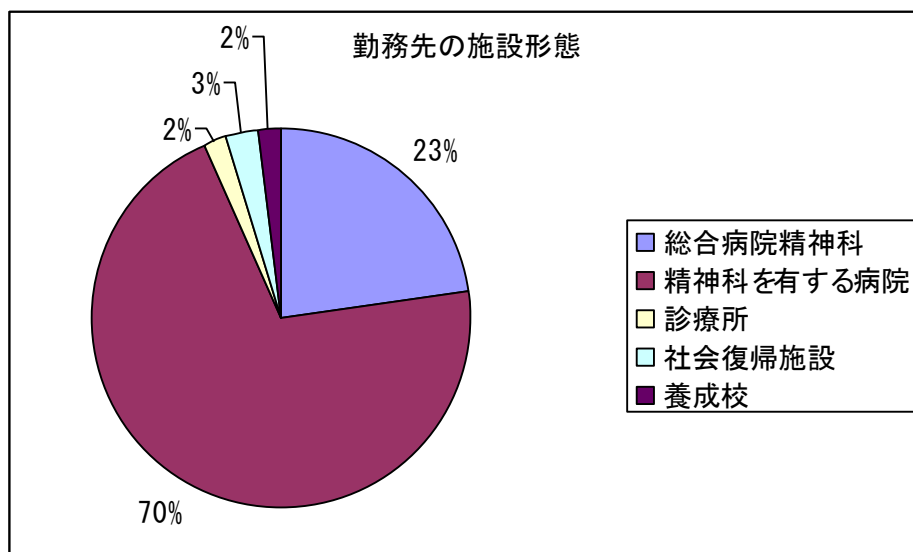
II. 調査結果

施設回答率 送付数 36 施設 回答数 27 施設 回収率 75%

回答数 106 名

1) 勤務先の施設形態について(人)

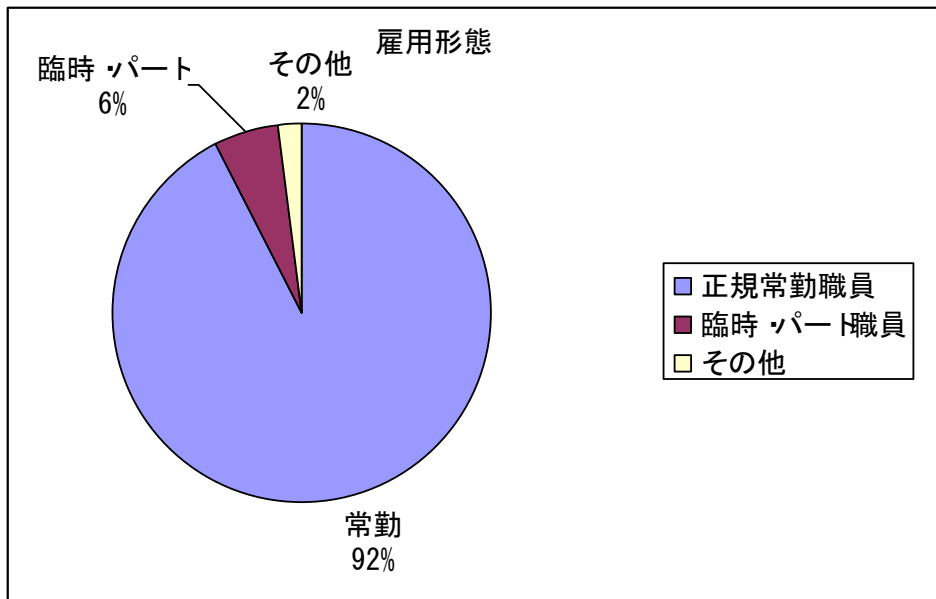
勤務先	総合病院 精神科	精神科を 有する病院	診療所	社会復帰施設	養成校	合計
人数	24	75	2	3	2	106
割合	22.7%	70.8%	1.9%	2.8%	1.9%	100%



施設形態は「精神科を有する病院」が一番多く、70%の作業療法士が勤務している。「小規模作業所」「市町村」の所属は回答の中にはいなかった。また、「総合病院精神科」と合わせると、93%の作業療法士が病院に勤務している形になっている。

2) 雇用形態について

	正規常勤職員	臨時・パート職員	その他	合計
人数	98	6	2	106
割合	92.4%	5.7%	1.9%	100%

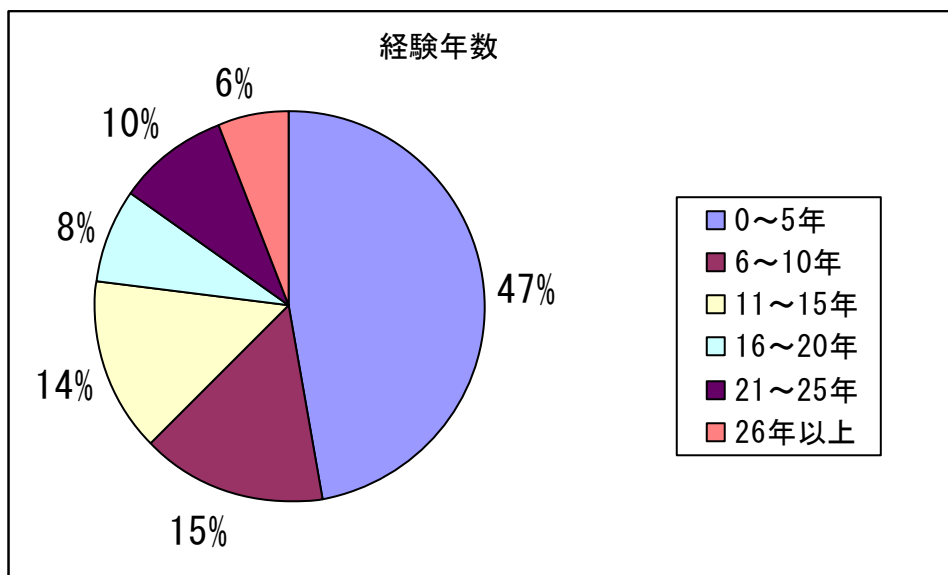


92%が正規常勤職員として働いている。

3) 精神科経験年数(人)

	0～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21～25年	26年以上	合計
人数	49	16	15	8	10	6	104
割合	47.1%	15.3%	14.4%	7.7%	9.7%	5.8%	100%

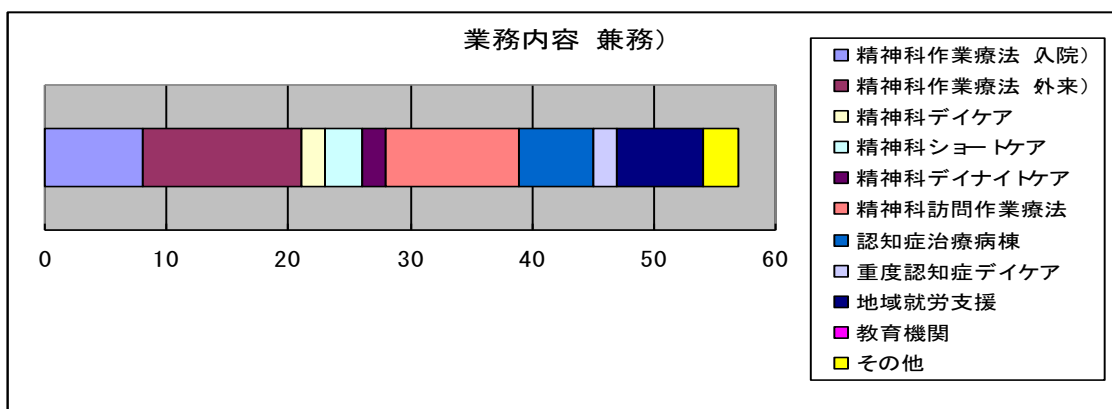
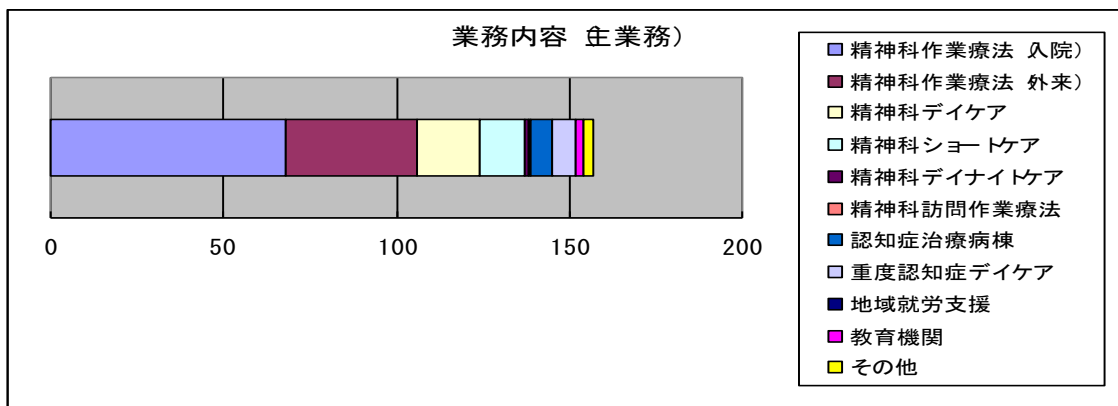
無回答 2名



0～5年が47%を占め、長野県士会全体の割合と変わらない。しかし、20年以上の経験者が県士会全体では10%であるが、15%と比較的多くなっている。

4) 業務内容(複数回答)

	主業務	兼務
精神科作業療法(入院)	68	8
精神科作業療法(外来)	38	13
精神科デイケア	18	2
精神科ショートケア	13	3
精神科デイナイトケア	1	2
精神科訪問作業療法	1	11
認知症治療病棟	6	6
重度認知症デイケア	7	2
地域就労支援	0	7
教育機関	2	0
その他	5	3



その他の業務の内訳

主業務 : 就労継続支援 B 型 ・ 精神科療養病棟 ・ 医療観察病棟 ・ 認知症療養病棟
 作業訓練指導、生活支援

兼務 : 作業所出向 ・ 保健所デイケア講師

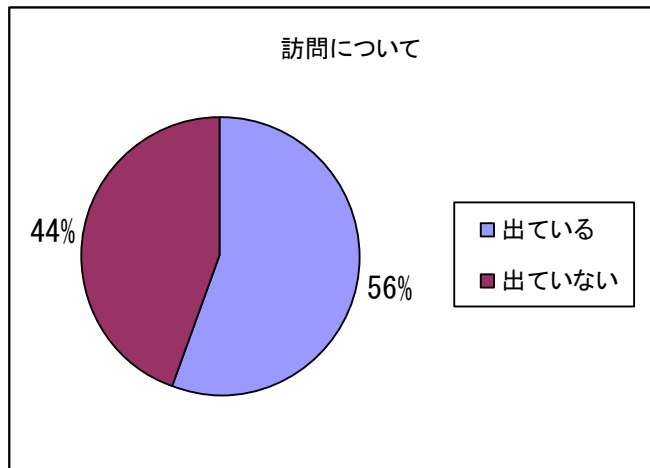
主業務は精神科作業療法(入院・外来)が中心となっている。

兼務ではその内容は多岐に渡っている。

5) 訪問について

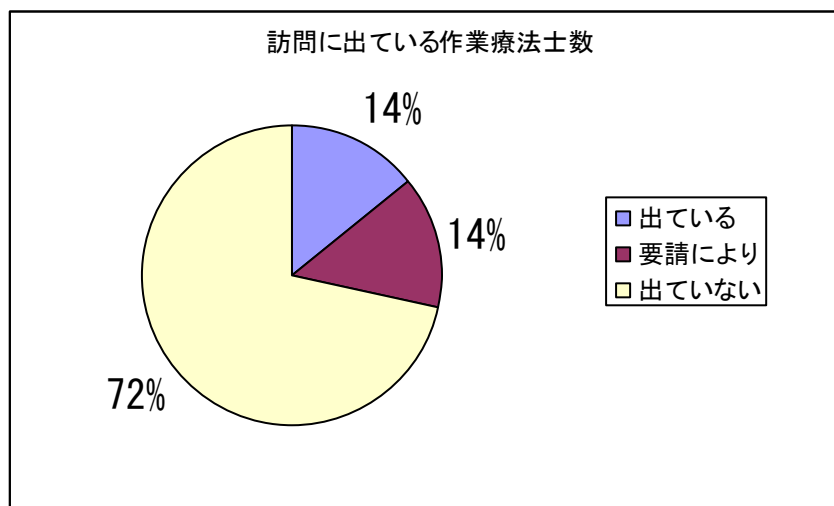
<訪問に出ている施設>

	出ている	出していない	合計
施設数	15	12	27
割合	55.6%	44.4%	100%



<訪問に出ている作業療法士>

	訪問に出ている	要請があれば出ている	出していない	合計
人数	15	15	76	106
割合	14%	14%	72%	100%



- ・ 訪問業務は半数以上、55%の施設で実施されていた。
- ・ 実際に訪問業務に携わっている OT は 28% となっている。

<訪問頻度と担当者数>

訪問に定期的に出ている

頻度	月 45 件	月 30 件	月 2 件	月 2 件	月 2 件	月 1 件	月 1 件	月 1 件
担当者数	35 名	10 名	3 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名

頻度	2 週・10 件	週 3 件	週 1 件	週 1~2 件	週 1 件	2 週・1 件
担当者数	7 名	4 名	3 名	2 名	1 名	1 名

要請があった場合に出ている

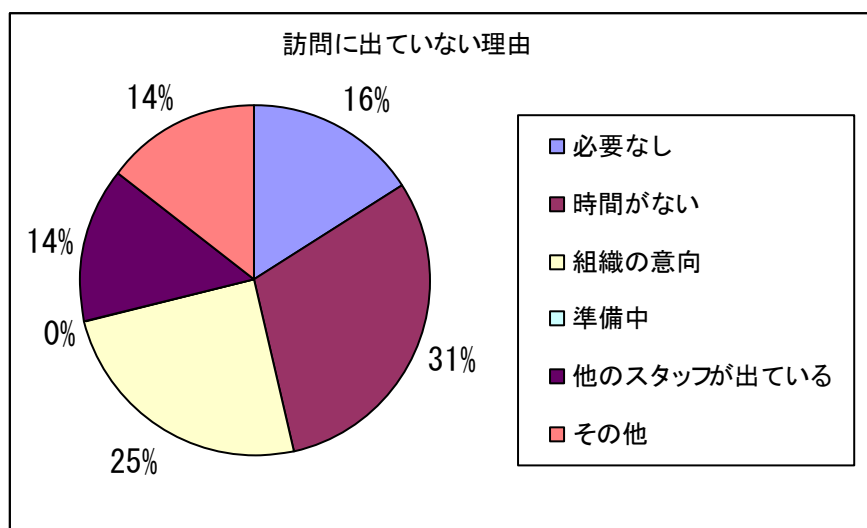
[H22 年度実績]

担当人数	5 名	4 名	3 名	2 名	2 名	2 名	2 名
回数	27 回	4 回	5 回	11 回	10 回	4 回	4 回

担当者数	2 名	2 名	1 名	1 名	1 名	無回答	無回答
回数	2 回	1 回	3 回	2 回	1 回	3 回	3 回

訪問に出ない理由

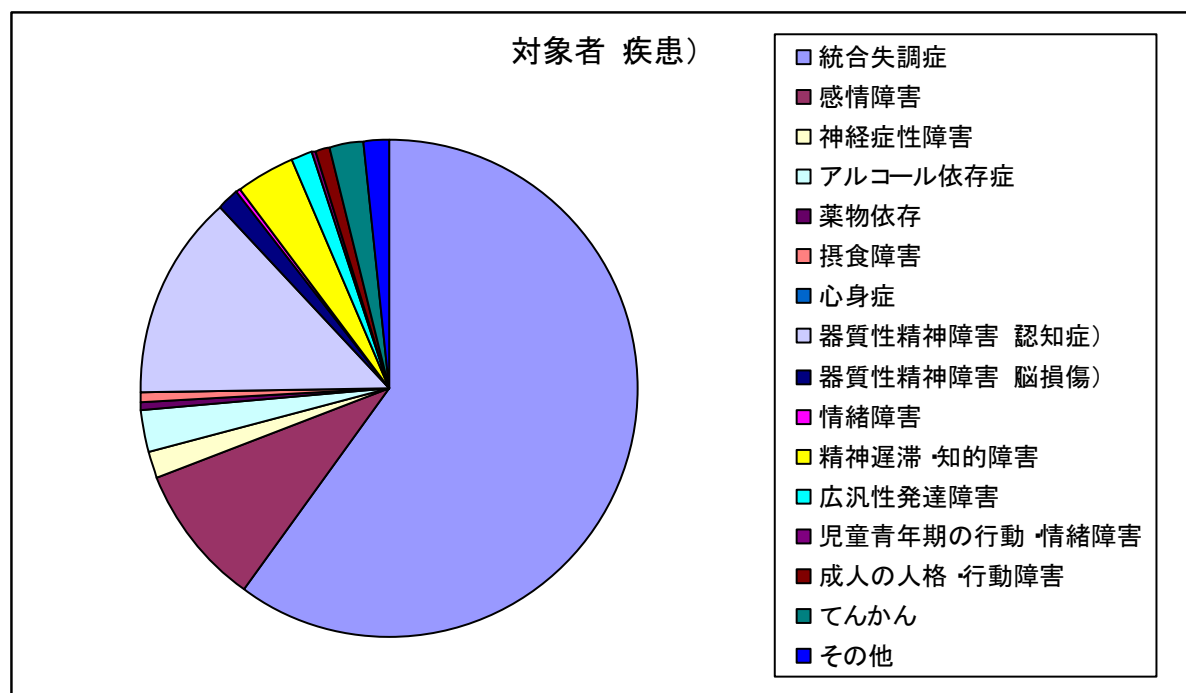
	必要なし	時間がない	組織の意向	準備中	必要を満たしている	その他
人数	11	21	17	0	10	10
割合	16%	31%	25%	0%	14%	14%

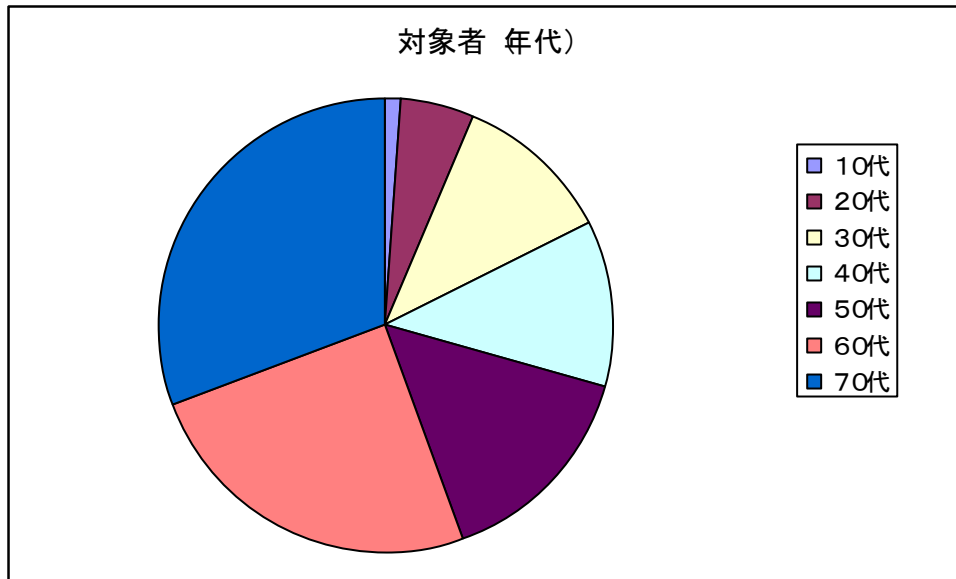


- ・ 担当者数、頻度は様々なパターンがあった。
- ・ 必要性を感じながら出られていないという回答が 56%とかなり高い割合となっている。
- ・ 半数以上の施設で訪問が実施されているという状況から、他のスタッフが出ていて必要を満たしているという回答も 14%みられた。

6) 作業療法対象者について

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	合計
統合失調症	22	133	265	312	408	661	416	2217
感情障害	0	10	34	37	58	94	78	311
神経症障害	1	5	14	0	4	10	14	48
アルコール依存症	0	4	4	27	22	40	13	110
薬物依存	0	1	5	5	2	3	2	18
摂食障害	4	2	4	2	1	0	0	13
心身症	0	0	1	0	0	0	0	1
器質性障害(認知症)	0	0	0	0	10	59	575	644
器質性障害(脳損傷)	0	2	6	7	16	9	25	65
情緒障害	2	1	2	1	1	4	1	12
精神遅滞・知的障害	2	11	44	27	21	21	8	134
広汎性発達障害	8	16	6	8	13	4	0	55
児童・青年期の行動・ 情緒障害	7	1	1	0	0	0	0	9
成人の人格・行動障害	0	8	11	7	2	3	2	33
てんかん	0	3	15	13	15	21	13	80
その他の精神疾患	0	2	2	3	9	15	21	52
合計	46	199	414	449	582	944	1168	3802





- ・ 作業療法対象者の疾患別ではやはり統合失調症が圧倒的に多く、次いで認知症が多くなっている。
- ・ 統合失調症の60歳以上が多数を占めており、高齢化のため入院が継続になっているケースが多い状況がうかがわれた。

精神科領域デイケア調査結果

I. 調査概要

調査目的 : 県内の精神科デイケアの実態調査

調査日程 : H23 年 8 月 1 日～8 月 20 日

調査内容 : 施設概要、運営状況、スタッフ構成に関する調査

II. 調査結果

施設回答率 送付数 24 施設 回答数 19 施設 回収率 79.2%

デイケア実施施設 18 施設 有効回答率 75%

デイケアの施設概要について

① デイケア営業日数

	週 4 日	週 5 日	週 5～6 日	週 6 日
施設数	1	11	1	5
割合	6%	61%	6%	28%

デイケアの営業日は、長期通所者には週 5 日まで点数請求可という上限があることもあり週 5 日営業という施設の割合が多い。

② 利用定員

	30 人以下	31～50 人	51～80 人
施設	8	6	4
割合	44%	33%	22%

③ デイケアの規模

	小規模	大規模
施設数	8	10
割合	44%	56%

デイケアの規模は小規模 45%,大規模 55%。その中で 50 人以下の受入れ施設が 78%と、小・中規模人数のデイケアが多い。

④ ショートケアの実施

	実施している	実施してない
施設数	16	2
割合	89%	11%

⑤ ショートケアのプログラム運営

	デイケアと同じ	デイケアと別
施設数	14	2
割合	87.5%	12.5%

⑥ デイナイトケアの実施

	実施している	実施していない
施設数	3	15
割合	17%	83%

⑦ ナイトケアの実施

	実施している	実施していない
施設数	1	17
割合	6%	94%

ショートケアの実施は 89%と多い。デイケアとショートケアを別々のプログラムで受入れている施設は 12.5%で、デイケアと同様のプログラムの中でショートケア対応を行い請求している施設が大部分であった。デイナイトケア・ナイトケアまで実施している施設は 3 施設と、日中のみの対応施設が多い。

⑧ 1 日平均参加人数

大規模デイケア					
	実施施設数	実施施設率	1 日平均	施設平均	対デイケア人数比率
デイケア	10	100%	8.8～61 人	34.0 人/日	100%
ショートケア	8	80%	1.4～12 人	5.1 人/日	15%
デイナイトケア	3	30%	4.5～12 人	9.5 人/日	28%
ナイトケア	1	10%	3 人	3 人/日	9%

小規模デイケア					
	実施施設数	実施施設率	1 日平均	施設平均	対デイケア人数比率
デイケア	7	100%	9.5～22 人	12.7 人	100%
ショートケア	5	71%	0.9～6 人	1.7 人	13%
デイナイトケア	0	0%	-	-	0%
ナイトケア	0	0%	-	-	0%

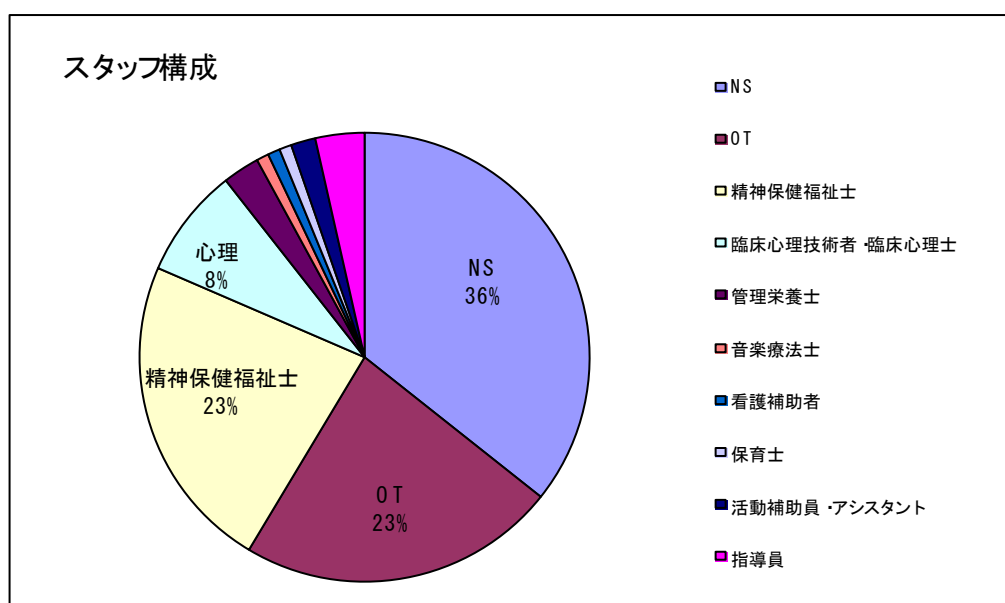
(未記入施設 1)

施設認可上のデイケア規模とは別に、実際の平均参加人数で見ると各施設で参加人数には大きなばらつきがある。デイケアの規模は施設面積とスタッフ人数で決まり大規模と小規模では単価が異なる為、スペースや人員にゆとりのある施設は実際の通所人数の大・小に関わらず大規模の施設基準を取得しているという実情が認められた。

ショートケア利用者数はデイケア参加人数の 13□ 15%、ナイト利用者はデイケア参加人数の 30%程度であった。

⑨ スタッフ構成

	常勤	非常勤	合計	職種割合
Dr	28	9	37	(除外)
NS	25.5	15	40.5	36%
OT	24	2	26	23%
精神保健福祉士	20	6	26	23%
臨床心理技術者・臨床心理士	9	0	9	8%
管理栄養士	3	0	3	3%
音楽療法士	1	0	1	1%
看護補助者	1	0	1	1%
保育士	1	0	1	1%
活動補助員・アシスタント	1	1	2	2%
指導員	0	4	4	4%



(OT の配置状況)

OT 人数	3 人	2 人	1 人	0 人
施設数	3	5	7	3
割合	17%	28%	39%	17%

OT は 84% のデイケアで配置されており、2 人以上の複数配置されている施設も 45% と半数近い。現場の実働スタッフを見るために Dr を除いた職種の配置割合で見ると、OT は全体の 23% を占め PSW と同じ。Ns の配置が最も多く OT や PSW の約 1.5 倍であった。

⑩ デイケアの昼食提供

	施設
全額通所者負担	0
一部通所者負担	1 (ショートケア利用者)
通所者負担なし	17

アンケート作成検討時の平成22年に診療報酬の改定があり、デイケアの昼食代金の対応について各施設で他の病院の対応方法を聞きあうなど若干の混乱があったが、どの施設も昼食は病院負担・ショートケアには食事が付かない形で落ち着いていた。

作業療法士の通園施設への関わりについての調査結果

調査概要

36 施設に郵送し回答数 18 施設（回答率 50%）

1. 施設概要について

①貴施設の設置主体をお書きください.

設置主体	市町村・社協含む	社会福祉法人	NPO法人
施設数	9	8	1
割合	50%	44.4%	5.5%

②営業日は週何回ですか.

営業日	週 5 日	週 6 日	週 7 日
施設数	15	2	1
割合	83.3%	11.1%	5.5%

③貴施設の利用定員数は何名ですか.

定員数	1~10	11~20	21~30	なし
施設数	7	5	5	1
割合	38.8%	27.7%	27.7%	5.5%

8 月 1 日現在の利用登録されている方は何名ですか

登録者数	1~10	11~20	21~30	31~40	41~50	51~
施設数	3	2	4	1	5	2
割合	16.6%	11.1%	22.2%	5.5%	27.7%	11.1%

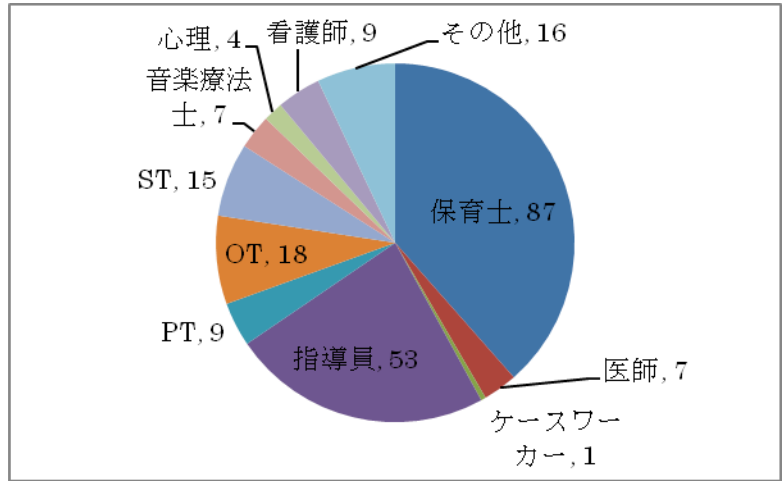
④サービス内容について（複数回答あり）

サービス内容	児童デイサービス	知的障害児通園	重心児者通園事業	その他（タイムケア/ 地域活動支援センター）
施設数	12	4	1	2
割合	66.6%	22.2%	5.5%	11.1%

⑤対象児の疾患について(a.重症心身障害 , b 肢体不自由 , c 知的障害 , d 発達障害

対象児	abcd	abc	bcd	bc	cd	d
施設数	5	2	6	1	2	1
割合	27.7%	11.1%	33.3%	5.5%	11.1%	5.5%

⑥スタッフ構成について（回答から県内の通園に関わるスタッフの構成を見た）



2. OT（作業療法士）の業務について教えてください。

①作業療法士の勤務状況

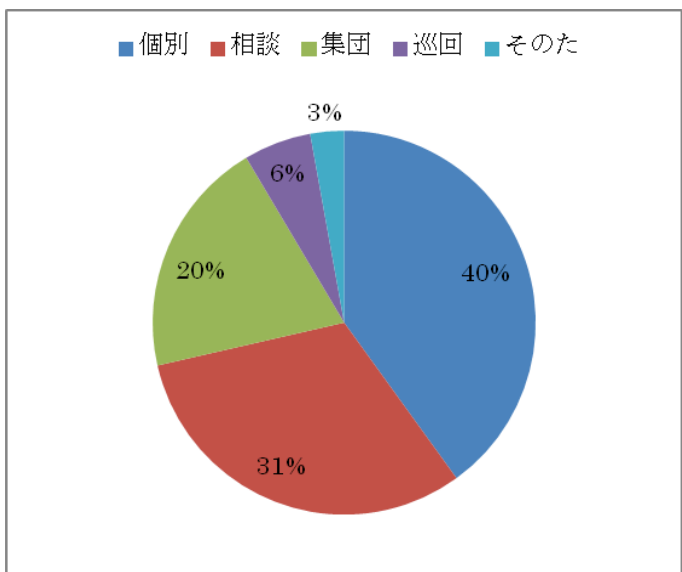
	OTが業務していない	OTが業務している
施設（18施設）	3	15
OT数（18名）	0	常勤2名 非常勤16名

月の回数 (月に換算した結果)	0	□ 1	2□ 5	6□ 10	11□ 15	16□ 20
施設数	3	5	5	2	2	1
割合	16.6	27.7%	27.7%	11.1%	11.1%	5.5%

②作業療法の業務内容について

個別	相談	集団	巡回	その他
14	11	7	2	1

（その他：栄養士，調理員，リトミック講師ほか）



3. OT への意見要望（自由記載）

- 作業療法士は依頼していない。
- 園利用児の約 80%が発達障害を持つ園児です。感覚統合の視点や実生活に活かせるノウハウを具体的に教えて頂けるOTが地域のあちらこちらに居て頂けたらありがたいです。
- 障害児にとって医療機関の訓練が子ども達の生活が豊かになる具体的な指導であって欲しいと願います。また、自助具等 生活で使うその子に合ったモノをどんどん教えて頂きたいと思えます。当園のOTの先生は机上だけでない生活の中での支援を頂いて大変満足し感謝しています。
- 市でOTを雇用したいがなかなか難しい現状。

4. 調査結果についての所見

回答率 50%であり、県内の障害児通園の療育状況を十分に把握できてはいないが、回答のあった施設からの回答から考察を試みる。

県内の障害児通園の設置主体は市町村が半数 社会福祉法人等の法人が半数であった。多くは週 5 日の営業をしている。定員は施設の規模から 10 名、20 名、30 名と別れるが市町村のサービスである事から定員を設けていない施設もあった。

サービス内容は 多くの施設が児童デイサービスを利用している。対象児については重症心身障害児も対象としている施設は 7 施設、肢体不自由児を対象としている施設は 14 施設、知的障害を対象としている施設は 16 施設、発達障害を対象としている施設は 14 施設となっているが、対象として発達障害児が増加してきている状況が自由記載のコメントから伺える。

スタッフ構成は、全体をみると主には保育士・指導員が中心となるが、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、音楽療法士、臨床心理士、看護師等のスタッフが少数ではあるが、療育サービスを支えている実態がある。

作業療法の業務は個別指導が 14 施設と最も多いが、相談や集団療育なども行っている施設が半数近くあり、巡回を行っている施設も 2 施設と少ないがある事がわかった。

自由記載のコメントから、作業療法士は療育・支援のスタッフとして期待されているが、特に実生活に直接つながる具体的な支援・技術が求められる。現状ではOTの必要性があっても人材の確保が難しい状況もある。今後の課題として、地域で働くOTの拡大と知識・技術の研鑽があげられる。

以上

介護保険施設等従事者（老年期分野）実態調査結果

I 調査概要

調査目的：県内の介護保険施設に勤務する作業療法士の実態調査

調査日程：平成 23 年 8 月 1 日～ 8 月 20 日

調査対象：介護老人保健施設及び施設名から介護保険サービスを実施していると思われる施設に勤務する平成 22 年度県士会会員 189 名

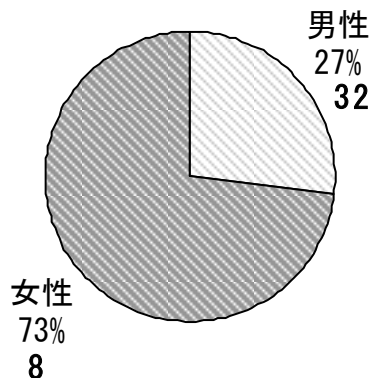
調査内容：勤務状況、県士会で行なう研修会に対する意識・要望、職場での問題解決に関する状況

II 調査結果

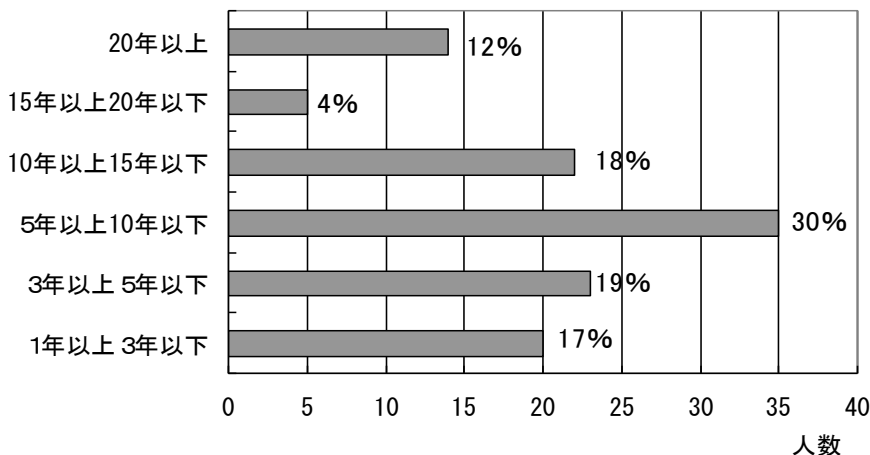
回答数 121 名 内有効回答数 119 名 回答率 64%

1) 一般情報 回答数 119

問 1 性別：

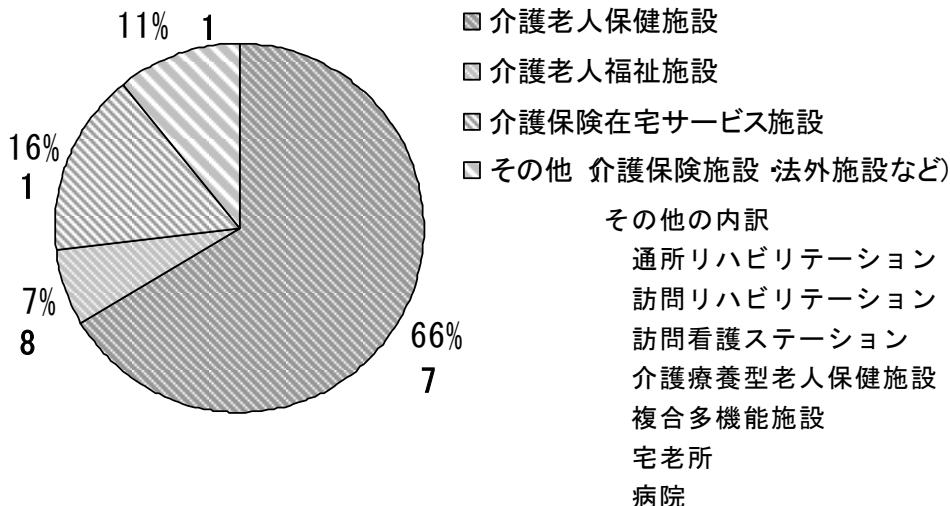


問 2 経験年数：



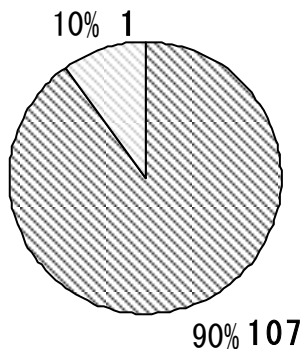
※経験年数 10 年以下が全体の 66% を占める。

問 3 勤務先：現在の勤務先についてお答えください。尚、複数の施設に勤務されている場合は 1 週間当りの勤務時間が一番長い施設を選択してください。



※施設サービス系 75% 在宅サービス系 25%

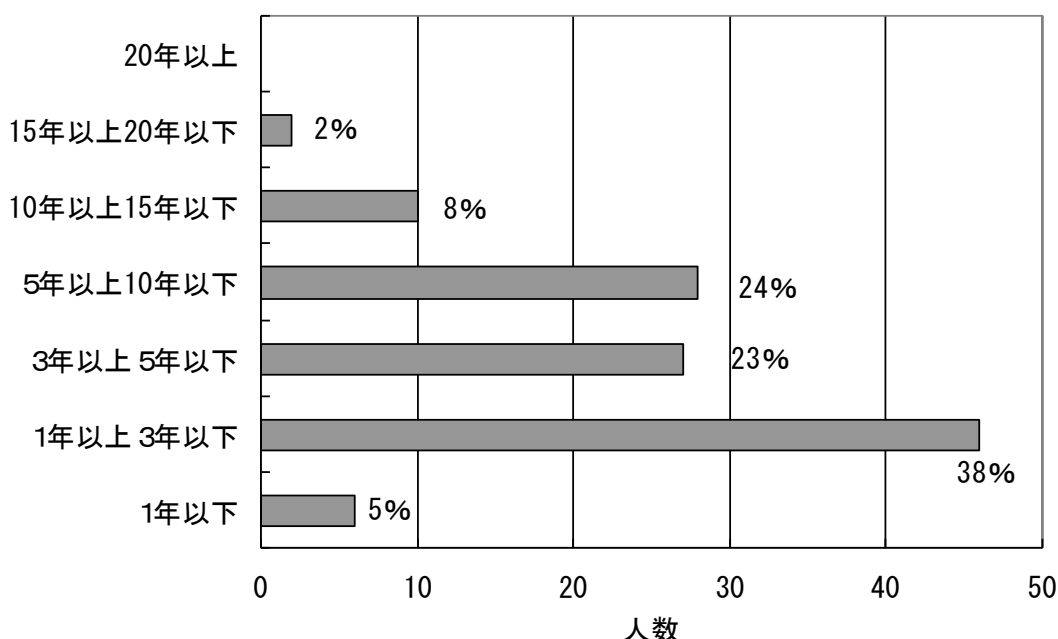
問4 勤務形態：問3で選択した施設についてお答えください。



- 正規職員
- 臨時・パート職員

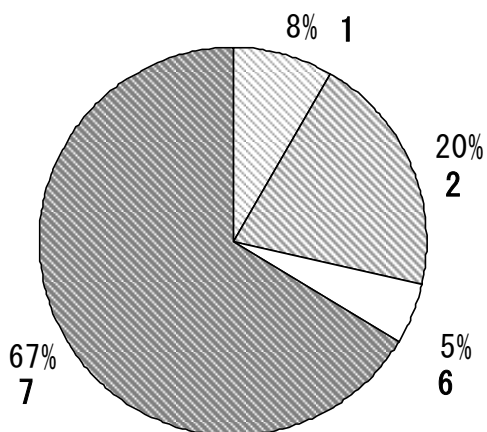
※雇用は殆どが正職員として採用されている。

問5 勤務年数：問3で選択した施設についてお答え下さい。尚、転職・再就職をされている場合は現在の勤務年数をお答えください



※勤務年数5年以下が全体の66%を占める。経験年数と比べるとその職場では、若年になっているOTRが多い。

問6 人員体制：問3で選択した施設についてお答えください。

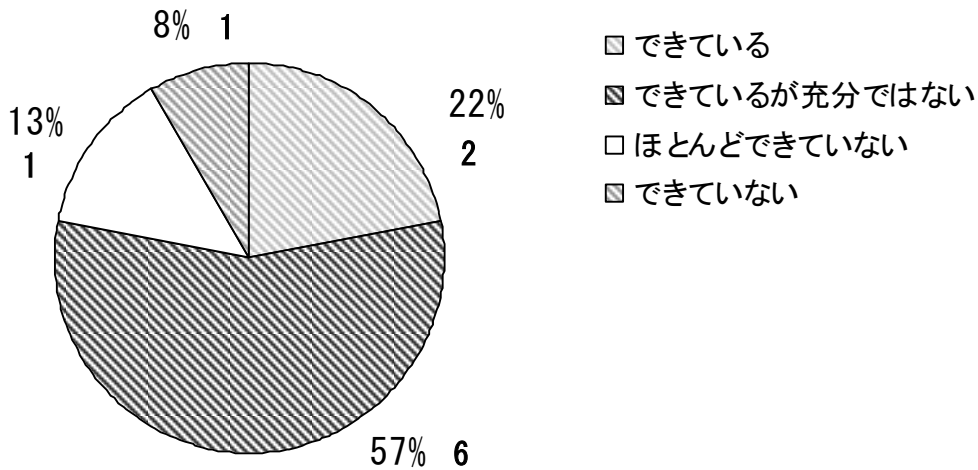


- 一人職場で、他のリハビリ職員 (PT, ST) もいない
- OTは複数人数いるが、他のリハビリ職員 (PT, ST) はいない
- OTは自分だけだが、他のリハビリ職員 (PT, ST) はいる
- 複数のOTと他のリハビリ職員 (PT, ST) もいる

※リハビリテーション職種を合わせるとある程度のスタッフ数が確保されている施設が全体の6割強を占める。

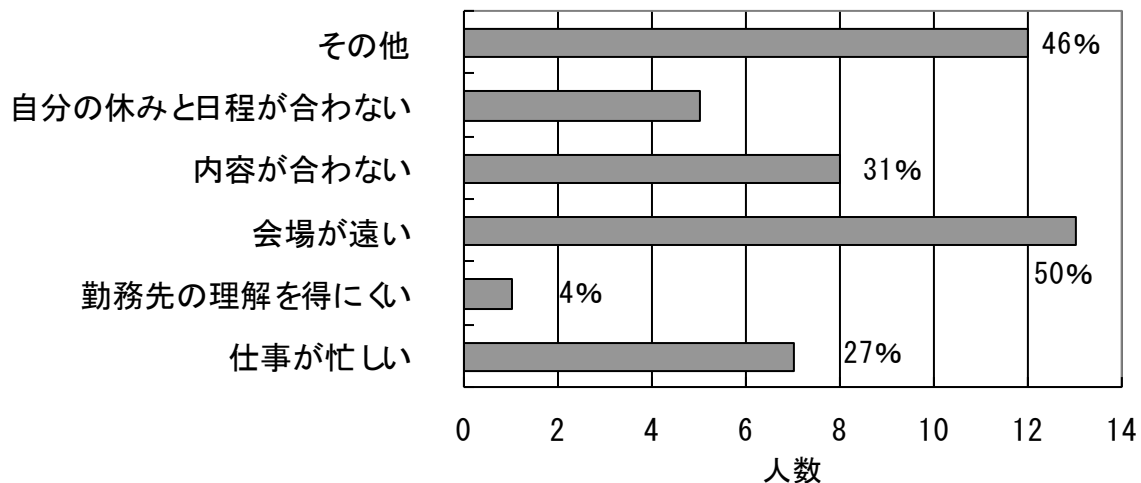
2) スキルアップの状況 回答数 119

問1 研修会等自分が参加したいと思ったものには参加できていますか。



※全体の78%がある程度は研修会に参加出来ているが、参加していると答えた中でも72%が充分ではないと感じている。

問2 問1で③、④と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。主な理由を2つまでお答えください。（母数 26 [%]は母数に対しての%を表す）

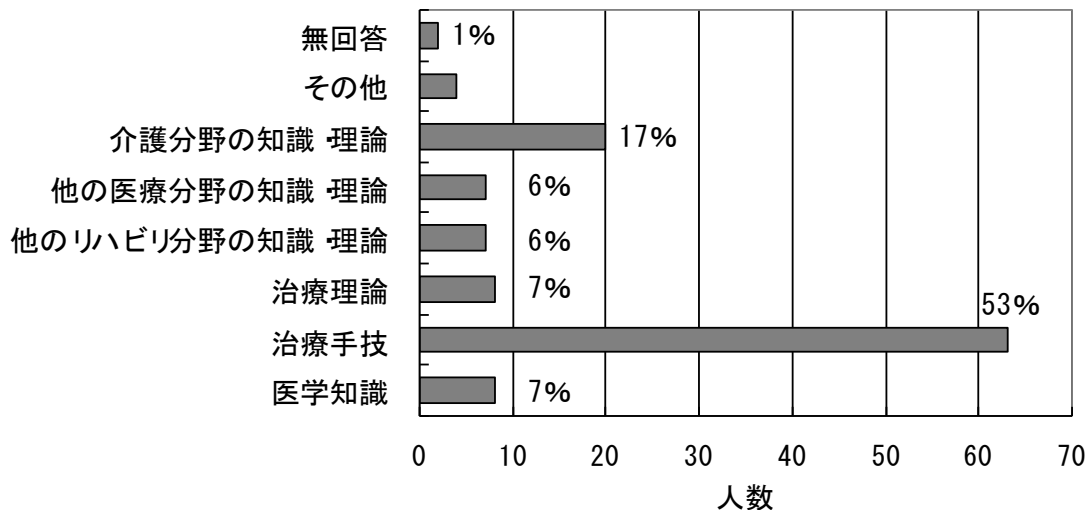


その他の内訳（母数 12）

育児のため	6 (50%)
家庭の事情	4 (33%)
自分自身の問題	2 (2%)

※仕事や勤務先の関係よりも会場が遠いことの方が研修会への参加を妨げている。

問3 どんな研修会を行なってほしいと思いますか。1つお答えください。



その他の内訳

訪問リハの応用的知識や事例報告

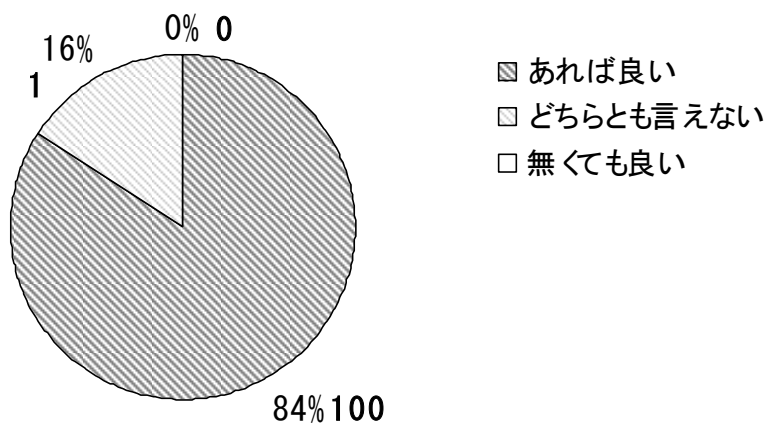
いろいろなことを学びたい

他の施設との情報共有が出来るような内容

制度の理解・解釈

※実技研修会を希望する意見が50%を超えて、他の内容と比べて圧倒的に多い。

問4 実技形式の研修会があれば良いと思いますか。



※問3の回答を反映して、実技を8割以上が希望している。

- 問5 問4で①、②と答えた方にお聞きします。どんな実技形式の研修会があれば良いと思いますか。良いと思うものを3つまでお答えください。
 (複数回答 最大3つまで選択 集計は総数 [%]は母数119に対しての%を表す)
 (ランキング形式で表示 項目前のカタカナは項目番号としてつけたもの)

1	<input type="checkbox"/> 各種マッサージ(ドレナージ等も含む)	35	29%
2	<input type="checkbox"/> ポジショニング	33	28%
3	<input type="checkbox"/> 呼吸法指導・排痰法	24	20%
4	<input type="checkbox"/> アクティビティ紹介	23	19%
5	<input type="checkbox"/> 嚥下訓練	18	15%
5	<input type="checkbox"/> 浮腫療法	18	15%
7	<input type="checkbox"/> ターミナルケア	17	14%
8	<input type="checkbox"/> 関節運動学的アプローチ(AKA)	16	13%
9	<input type="checkbox"/> 認知行動療法	15	13%
9	<input type="checkbox"/> 回想法	15	13%
11	<input type="checkbox"/> 脳機能トレーニング	14	12%
11	<input type="checkbox"/> 家屋改造・環境整備	14	12%
13	<input type="checkbox"/> モビライゼーション	13	11%
13	<input type="checkbox"/> 疼痛管理	13	11%
15	<input type="checkbox"/> 筋力トレーニング	9	8%
16	<input type="checkbox"/> ストレッチング	8	7%
16	<input type="checkbox"/> 褥瘡管理	8	7%
16	<input type="checkbox"/> 糖尿病に対する管理・運動療法	8	7%
19	<input type="checkbox"/> 吸引法	7	6%
20	<input type="checkbox"/> 神経筋促通法(PNF)	6	5%
20	<input type="checkbox"/> タクティールケア	6	5%
22	<input type="checkbox"/> 学習訓練法	5	4%
22	<input type="checkbox"/> 自助具作製	5	4%
22	<input type="checkbox"/> 介護方法	5	4%
25	<input type="checkbox"/> ハンドリング	4	3%
25	<input type="checkbox"/> スプリント作製	4	3%
27	<input type="checkbox"/> 音楽療法	2	2%
27	<input type="checkbox"/> カウンセリング法	2	2%
29	<input type="checkbox"/> NDT (ボバース法)	1	1%
29	<input type="checkbox"/> SST(社会生活技能訓練)	1	1%
29	<input type="checkbox"/> バリデーショ療法	1	1%
	<input type="checkbox"/> MAPT (Modified Attention Process Training)	0	0
	<input type="checkbox"/> PQRST法	0	0

※マッサージとポジショニングに30%近い要望がある。また上位には、重症対象者に対するアプローチ・手技を連想させる項目が比較的多い。

- 問6 ご自身が今一番興味を持っていること(手技や理論など)を教えてください。具体的にご記入ください。(回答の後ろにある数字は同一回答数を表す)

アクティビティの方法と内容および活用について(3)

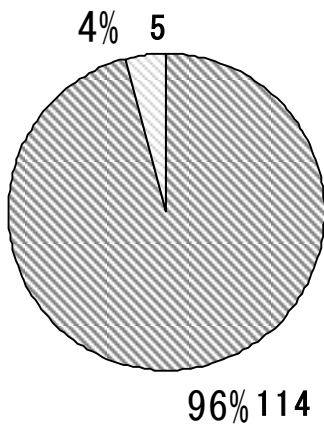
嚥下評価・訓練 食形態について(4)

関節ファシリテーション(SJF)について
AKA について(2)
神経筋促通法について
ボバースについて(3)
シーティングについて
ポジショニングについて
ハンドリングについて
動作分析の活用法と実践について
マッサージについて(3)
ROM 訓練、ストレッチング、筋力トレーニングについて(2)
タクティールケアについて(2)
呼吸リハビリについて:介助法、排痰法(7)
浮腫の治療、リンパドレナージについて(5)
緩和ケア(2)
ターミナル期のリハビリについて:介入の仕方、食事・嚥下方法、チームの中での役割(5)
糖尿病の運動療法やリスク管理について
整形外科疾患(変形性関節症など)に対する評価、治療、痛みの緩和について(3)
パーキンソン病について
最新の神経心理学、脳科学について(2)
ニューロリハについて
認知症について:治療、評価法、アプローチ法、各種療法、アクティビティの選択・種類、
エビデンス持ち方、最新の情報や他施設の取り組み(18)
認知リハについて(2)
介護予防について:理論、評価、治療、手技(2)
在宅指導について:生活指導、介助方法、訪問リハビリ時の指導法
福祉用具の種類・選定について(2)
維持期(慢性化した対象者)でのリハビリについて:継続の意義、訓練内容、有効的手段(2)
施設利用者同士のコミュニティについて:形成、援助
看護分野について:フィジカルアセスメント
介護保険制度やサービスサービスについて:訪問リハステーションの制度化、通所リハビリ、
ケアプラン(4)
認知症短期集中加算の算定について:訓練内容、対応方法、治療法(3)
施設でのOTの役割について:老健、認知症専門棟、ユニットケア リハビリの在り方(5)
他職種との連携について:情報共有、記録方法、伝達方法、意見(4)
職員への教育や人材育成について
対象者・家族指導・教育について:医療と介護の制度の違い
他地域・他施設の後期高齢者に関する情報について:興味、アクティビティの提供状況など
のデータ
介護保険の場面でOTが要求され、役に立てる様々な事について(2)

※問5とは対照的に自由回答では、認知症関連の内容や作業療法士の役割についての
関心が高い傾向になった。

3) 職場での問題解決 回答数 119

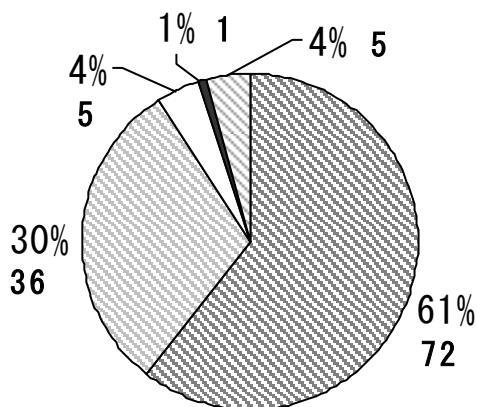
問1 仕事で困った時、相談できる人はいますか



- いる
- いない

※相談することが出来ない状況は極めて少ないと思われる。

問2 問1でいると答えた方にお聞きします。その人はどんな人ですか



- 勤務先のOT
- 勤務先の他のスタッフ
- 勤務先以外のOT
- その他
- 未回答

※90%が勤務先の職員に相談者がいる。

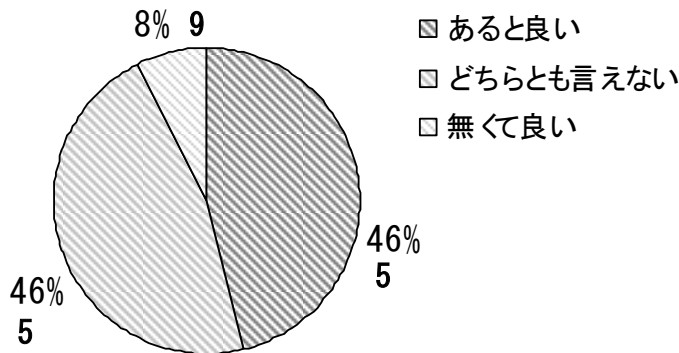
問3 問1でいないと答えた方にお聞きします。相談できる人がいなくて困ったことはありますか。

ある 3 (60%) ない 2 (40%)

※全体から見ると相談できなくて困った会員は2%わずかで、比較的相談できる環境が整ってきているように思われる。しかしながら、少数でも困った経験を持つ会員はいる。

全員にお聞きします。

問4 県士会或いは地区単位で相談窓口のようなものがあったら良いと思いますか。



4) 今回の実態調査および県士会の活動についてご意見等ございましたら、別紙にご記入ください。(五十音順に回答そのままに記載)

- OTながので報告されるのでしょうか。お願いします。
- 介護施設勤務のOTRの研修会集いのような場をつくる牽引をお願いしたい。
- 経験が浅く人数も少ない現場で悩んでいるOTは結構いるのではないかと思います。知識・技術を高めあえる集まり、フォローし合える機会が欲しいです。
- 研修会は講義形式のものが多く感じております。もっと実技形式のものが増えると参加意欲が湧きますし、即実践に繋がられるので助かるのですが・・・
- 県理学療法士会では制度改正に関する情報等、タイムリーに必要な情報をFAX通信という形で会員に配信しています。そこから得られる情報は役に立っています。作業療法士会も同様のシステムが出来るとよいと思います。
- これからも研修会等があれば参加して技術を身につけていきたいと思いますので老年期の実技も含む研修会を希望します。(できれば北信での開催を希望します。)
- 今回、老健OTに対してこのようなアンケートを取って頂きありがとうございました。新人が老健に就職し、評価やアプローチなどで困っていることが多々あり、何か解決できればと思います。
- 今回の調査は自分の日々の業務について改めて振り返られる機会となりました。有難うございました。
- 様々な取り組みをされていてありがたく感じています。
- 実技研修会がたくさんあると良いです。
- 実技講習を少しでも取り入れた研修会を企画して頂けたらと思います。
- 女性が多いOTですので、子育て中でもほんの少しでもスキルアップできるような環境なども検討していただけるとありがたいです。病院勤務よりも多少ゆとりのある福祉分野に勤務している方は多いように思います。
- まとめた後の考察
- 老健や訪問・通所リハに関わっているOTは、OT少人数の職場が多く、OTのアイデンティティや他職種との連携などで悩んでいる人が多いと聞いています。是非、県士会として情報支援の場や相談窓口など具体的な対策をお願い致します。